



発行所  
螢雪会  
愛媛県今治市旭町2-3-20  
螢雪会館

螢雪の未来

今西三十三期

螢雪——。それは校章にも校歌にも顕わされる、母校・今治西高の伝統精神であり一六六年脈打つDNAであり、同窓の絆そのものです。由来は、晋の車胤が灯油を買えず螢を集めてその光で書を読み、孫康が雪を積んだその明かりで学問に励んだという、あまりにも有名な故事「螢の光、窓の雪」に基づきます。貧しさの

中、苦勞して学問に励んだ二人は後に官僚として大成しますが、螢雪には「西高生もかくあれ！」との諸先輩の限らない慈愛が込められています。私たちにとってこの二文字はきつと、いつまでも色あせることのない「あらまほしき先達」なのです。

かくいう私は今西三十三期で、現在、愛媛県議会議員(松山市・上浮穴郡選挙区・二期)を務めさせて頂いています。今回の総会は、私たち三十三期が当番期。誰か寄稿しなければならぬということので有り難くもお声がけを頂きました。雲の上の大先輩から息子世代までの幅広さ、テーマもフリーということですので、無難ですが総会にちなみ表題といたしました。

さて、「承知の通り、わが国は二〇一〇年から人口減少時代に突入しており、二一〇〇年には現在約一億二千万人の人口が半減し六千万人になると言われています。これは、ほぼ昭和元年の人口と同じです。そもそも二一〇〇年という昭和生まれの私達はおよそ目にするのできない未来ですが、今年生まれの赤ちゃんの殆どが存命すると言われれば、手が届くほど身近な将来でもありません。その時、日本はどのような国になっているでしょうか。一方、国連の予測では、二一〇〇年の世界の人口は現在の七十四億人から一二億人に拡大するとのこと。果たして世界に食料や水、エネルギー資源は足りているでしょうか。平和は訪れているでしょうか。

あるいは「Society 5.0」。来るべき未来は、



狩猟、農耕、工業、情報に続く第五の社会、仮想空間と現実世界が高度に融合した「超スマート社会」と言われ、

既に世界が共有する概念となっています。AI、ビッグデータ、3Dプリンタ、ロボット、IoT、自動運転車。これらは既に進行中の第四次産業革命の一端ですが、その普及は二一〇〇年を待たず訪れるでしょう。そうして現出した社会は、昭和世代の私たちには想像もつかないものであるに違いありません。

現在、県内には五十五の県立高校がありますが、人口半減となれば統廃合の影響を受けない高校はありません。国際標準が進め

ば、六・三・三制も高等教育のありようも大きく変わるに違いなく、AIの普及は学校も教師も不要とするかもしれません。二一〇〇年、果たして母校はどうなっているでしょう。そこに螢雪精神は受け継がれているでしょうか。

私は、YESと信じます。そこに私たちの多くはいますが、いないから、なかったことになりません。“祖父が西高”、“うちは父も母も西高”と、母校の螢雪精神に学んだ“苦勞して事を成し遂げる尊さ”は、子や孫に誇らしく引き継がれていくことでしょう。これまで国内外の各界各層で陸続と人材を輩出してきた母校。今治西高の真髄は、実は見えない精神にこそ修まっているのです。同窓の一人として万感のエールを送りなが

ら、「螢雪の未来」を後輩諸君に託したいと思えます。

(木村 啓)